

2022年度 第4回 CPC研究会 オンデマンド配信

日 時 : 9月12日(月) ~ 16日(金)

視聴方法 : 申し込みをされた方に、配信 URL をご連絡いたします。
なお、配信 URL の再配布、動画のダウンロードや録画は禁止です。

料 金 : 維持会員・大学官公庁関係=無料 / 非会員=30,000円

申込締切 : 9月6日(火)

<http://cpc-society.org/>

「炭素材料を利用した種々の全固体電池電極の開発」

群馬大学 森本 英行 氏

- 1) 炭素/固体電解質を含有させた正極の特性
- 2) 固体電解質を含有させた黒鉛負極の特性
- 3) 導電性カーボンを被覆したシリコン系塗布負極の特性

リチウムイオン伝導性を示す無機固体電解質を用いた全固体リチウム二次電池は、実用化されている電解液を使用したリチウムイオン電池と比較して、安全性、信頼性、耐熱性の向上に加えて、高エネルギー密度化、高入出力化、長寿命化などの性能向上が期待されています。そのような無機固体電解質を用いる次世代全固体電池の開発において、炭素材料の役割は重要であると考えています。本講演では、炭素材料を利用した全固体電池電極に関する検討内容を紹介します。

「炭素材料担体アンモニア合成触媒の開発」

産業技術総合研究所 西 政康 氏

- 1) CO₂削減に向けたアンモニアの利用
- 2) アンモニア合成触媒の動向
- 3) メソポーラスカーボン担体触媒
- 4) 単層カーボンナノチューブ担体触媒

アンモニアは燃焼時に CO₂ を排出しないため、化石資源に代わる燃料として注目されています。一方、従来のアンモニア合成プロセスでは、原料となる水素の製造時に多量の CO₂ を排出します。そのため、再生可能エネルギー由来の水素からアンモニアを合成するための新しいプロセスと触媒の開発が求められています。本講演では、新規プロセスの実現に向けて、我々が取り組んでいる炭素材料を担体として用いたアンモニア合成触媒の開発について紹介します。

CPC 研究会 講演会事務局 行 e-mail: sec@cpc-society.org または FAX: 03-5821-7439
2022年度第4回研究会のオンデマンド視聴を希望します。

お名前: 維持会員 非会員 大学関係

ご所属:

Tel:

Fax:

E-mail: